

令和5年度 第3回 横須賀市療育相談センター 指定管理者審査委員会議事録

- 1 日 時 令和5年(2023年)10月26日(木)
午後2時30分～午後3時30分
- 2 場 所 はぐくみかん 5階 会議室4
- 3 出席委員 久保山委員長、岸川委員、市川委員、深井委員、青木委員
- 4 事務局 民生局福祉こども部福祉施設課 関主査、千葉主任、高木担当
- 5 傍聴者 3名
- 6 議事要旨
 - (1) 採点評価に関する意見交換
 - (2) 採点、集計
 - (3) 指定管理者候補の決定

<手順等>

 - ・各委員から、申請団体に対する意見を、評価基準の大項目ごとに発表する。
 - ・意見交換終了後、採点を行う。
 - ・各委員から採点表を提出してもらい、事務局で集計する。
 - ・集計の結果、総配点1100点満点の60%である660点以上を獲得した場合、指定する。
 - ・団体の評価は、市議会に対し資料提出するほか、横須賀市ホームページで公表する。

なお、横須賀市療育相談センターの指定管理者候補は、次の団体に決定した。

横浜市神奈川区西神奈川1丁目9番地1
社会福祉法人 青い鳥
理事長 飯田 美紀

採点評価に関する主な意見交換は次のとおり。

1 法令遵守

- ・法令遵守、情報公開に関しては、これまでも非常に厳格適切に対応してきている。
- ・事業計画書からも、個人情報の取り扱いについて万全の対策を取ること、過去のリスクマネジメントにおいても問題なく取り組んでいる。
- ・個人情報保護の意識等について、職員一人一人まで徹底している。

2 施設管理

- ・利用者及び職員の安全を考慮し、仕様書に基づいて施設管理を行っている。
- ・環境負荷を低減するための取り組みや啓発にも努めている。
- ・安全衛生委員会において定期的な建物管理が行われていて、労働災害、事故発生防止に努めている。

3 利用者への配慮

- ・意見箱の設置、アンケートの実施、第三者評価の受審等をとおして、法人全体で課題共有に取り組んでいる。
- ・職種間での課題共有をとおして、トラブルを予防する体制を打ち出している。
- ・苦情が出た際の解決策について適切に示されている。

4 リスクへの対応

- ・事故災害に備えた計画マニュアルを策定し、ヒヤリハット、事故報告についてもその都度、適切に対応している。
- ・避難訓練等を実施し、児童の安全を第一に考えている点は今後も期待できる。

5 障害者、男女共同参画及び多様な性への配慮

- ・女性の雇用について、法人全体で 50%を超えていて、男女共同参画の点は高く評価できる。
- ・障害者雇用については、コロナ禍の影響もあり、実習の受け入れや職場として定着することが困難ではあったが、法人として前向きに取り組む姿勢を確認できた。
- ・職員意見調査を実施し、現場職員の実態を把握したうえで法人全体の制度改善を進めている。制度改善には、多様な性への配慮も含まれている。

6 地域貢献

- ・市内の関係機関と積極的かつ丁寧な連携を取っている点は高く評価でき、今後も様々な地域の機関へ繋がっていくことが期待できる。そのうえで、児童発達支援事業所が近年増加しているなか、児童発達支援事業所の質の担保に向けて、今後の貢献を期待する。

7 人員体制

- ・モチベーションの高い職員が多く、資格職の確保が難しい状況でも、法人として努力している。今後は、職員の意識を地域へ還元していくことに期待する。
- ・勤務年数が長い職員も多く、地域の専門家としての活躍を期待する。
- ・療育については、学生に「難しい」というイメージを持たれがちだが、講演会を開催するなど人材育成への努力を行っている。

8 現場における事故防止策

- ・各委員会で丁寧に考察を行い、事故報告やヒヤリハットへの対策も行われている。
- ・児童の発作等を想定した訓練も行っていて、評価できる。

9 療育環境の変化に合わせた情報提供と支援

- ・今後 10 年で支援が多岐にわたる子どもが増えていくなかで、国の制度やサービスが増え、子どもの環境が大きく変わっていくと予想される。保護者にとって、どの情報がどの場面で必要となるかの判断が難しくなってくるが、療育相談センターが保護者へ適切な情報共有を行うことを、前回のヒアリングで確認した。
- ・いわゆるグレーゾーンといわれる支援の境界にいる子どもの家庭への支援についてのビジョンを明確にしていくことを期待する。
- ・学齢期から成人に向けては様々な情報が必要になる時期のため、子どもの家庭へ情報提供できるように、療育相談センターには良質な情報の収集を期待する。

10 アウトリーチ活動体制の確保

- ・地域の中核としての役割を十分認識し、親子教室や巡回相談など様々なアウトリーチ活動を行っている。今後も期待できる。
- ・保育園等における療育相談センターの支援は、今後も期待されると思われる。保育所等訪問支援の更なる充実を期待する。

11 就学・就労を意識した他機関との連携とつながりのある支援

- ・就学については、現在も積極的な連携と支援が行っていて、今後も期待できる。
- ・就労については、今後の積極的・具体的な提案を期待したい。
- ・ライフステージに即した相談機会を提供するなど、関係機関との連携は可能な限り行われている。
- ・教育委員会との連携がさらに深まり、機能していくことを期待する。

12 技術職員のスキルアップ

- ・研修等について、専門職ごとに分かれて職員同士の意見交換や情報共有を行っている点を評価する。
- ・法人全体で積み上げてきた技術やスキルを共有できると、より良い支援に繋がるため、共有する機会を増やしていくことを期待する。

13 指定管理料

- ・事業の効率化のため、通園システム等のシステム導入に力を入れ、経費削減を図っている。
- ・令和 3 年度には、経費削減による自主事業を実施した。自主事業により、法律や制度の及

ばない支援を補完する事業をモデル的に実施する等、今後の提案についても評価する。

採点評価に関する委員長総評は以下のとおり。

社会福祉法人青い鳥は、過去 15 年間にわたり、横須賀市療育相談センターを運営し、優れた実績と信頼がある。

今後の 10 年についてもこれまで以上の実績を挙げることができると考える。その根拠となる申請に対する評価は、以下のとおり。

リスクへの対応については、災害、感染症等に対応した危機管理マニュアルを策定し、利用者の安全に配慮している。横須賀市療育相談センターは、第二次福祉避難所に指定されていて、今後も本市との協定を継続し、地域住民の安全確保に協力するとの提案は、評価できる。

障害者、男女共同参画及び多様な性への配慮としては、障害者雇用については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で抑制していた実習生の受け入れを、状況を見ながら積極的に再開し雇用に結び付けたいとの提案に期待できる。

女性の雇用については、法人全体で 50%を超えていて、将来的に女性管理職の割合は増すことが見込まれる。

また、「職員意見調査」により、実態に即した制度改善、多様な性への認識などこれらの試みは、評価できる。

支援が必要であるのにもかかわらず届いていない人に対し、積極的に働きかけて情報・支援を届ける（いわゆるアウトリーチ活動）体制について、児童発達支援センターが、療育における地域の中核施設として、アウトリーチ活動を推進していくことが求められている。これまで実施してきた巡回相談やひまわり園併行通園先の保育園等への支援の充実、保育所等訪問支援事業の拡充、居宅訪問型児童発達支援事業を新たに実施する提案は、評価できる。

就学・就労を意識した他機関との連携とつながりのある支援については、教育委員会や特別支援学校との連携についての提案は、評価できる。今後、さらなる支援を期待する。

これまでの管理実績から、信頼性や、適切なサービス提供が担保されている。利用者や地域への時代状況に合わせたさらなる貢献のための努力を期待する。

(以上)